

2025（令和7）年5月28日

「日本語学会 学会報告」

発表者：俣平洗希（東京外国語大学大学院博士前期課程）

本発表では、2025年5月10日から同月11日にかけて名古屋大学・東山キャンパスで行われた日本語学会2025年度春季大会の内容に関する報告を行った。本発表の構成は、大会概要の説明に始まり、発表担当者が注目した2つの口頭発表について簡潔に紹介したのち、担当者の感想と今後の大会予定を述べて終了した。

1つ目の発表「文末名詞文「気だ」の構文としての意味—「観察」という文法概念の精緻化に向けて—」は、「気だ」という文末形式の分析において、認知的行為としての「観察」という概念が深くかかわっていることを主張し、先行研究に対する位置づけ、ならびにモダリティや名詞述語における分類といった諸分野における展望を示した。

2つ目の発表「思考動詞と共起する「NPのこと」の使用メカニズム—「考える」を手掛かりに—」では、「NP {を／のこを} 考える」という形式上の差異をめぐって、クオリア構造の概念を用いた再分析の手法が提案された。具体的には、NPの形式クオリアに注目する場合、「NPのこと」という形式は成立しないということが主張された。